

2026年3月期 中間期 決算説明会

2025年11月14日



- 1** 2026年3月期 中間期 業績
- 2 2026年3月期 業績予想
- 3 「中期経営計画23-25」進捗
- 4 資本コストや株価を意識した経営への取り組み
- 5 その他トピックス

2026年3月期 中間期 業績ハイライト

売上高

1,667億円

減収
増減率 ▲18億円
▲1.1%

営業利益

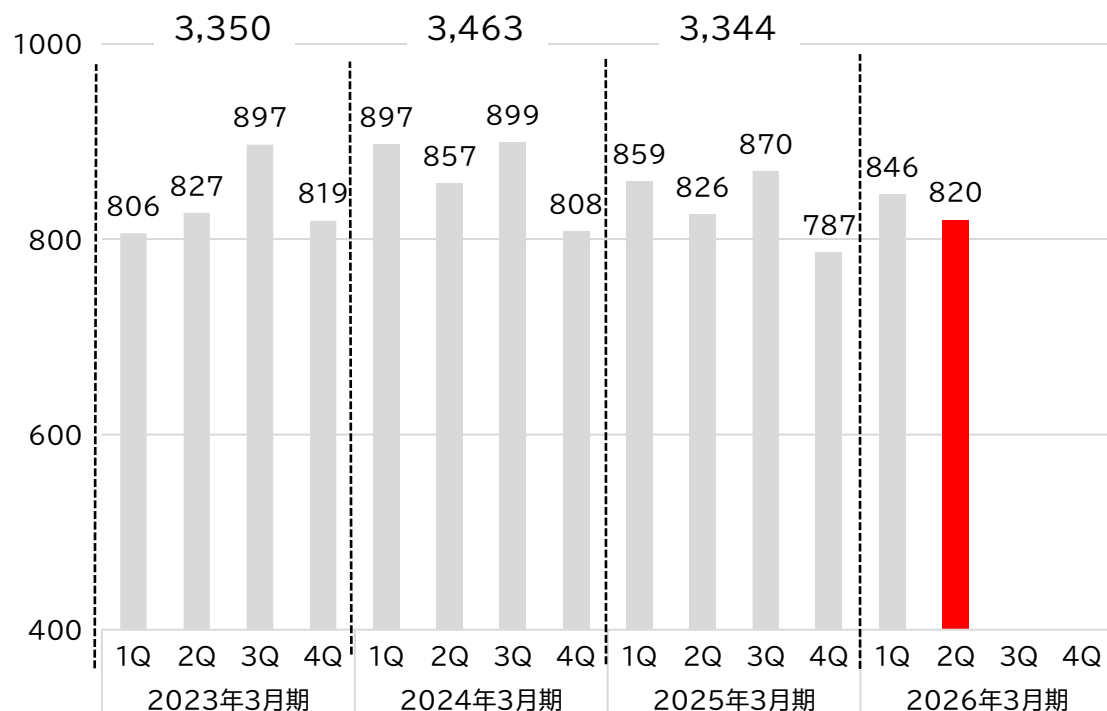
60億円

減益
増減率 ▲8億円
▲11.8%

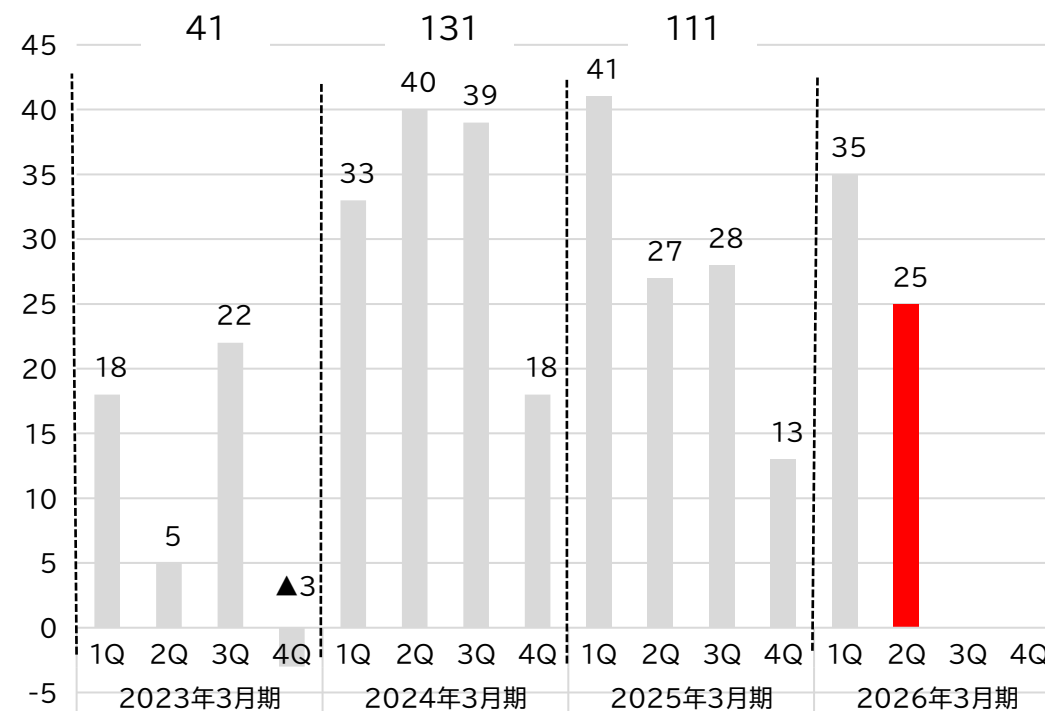
・販売数量はほぼ前年同期並みも、原料価格下落に伴う販売価格の低下により減収

・販売価格のマイナス分による影響
・物流費および人件費等の販管費増により減益

(単位:億円)



(単位:億円)

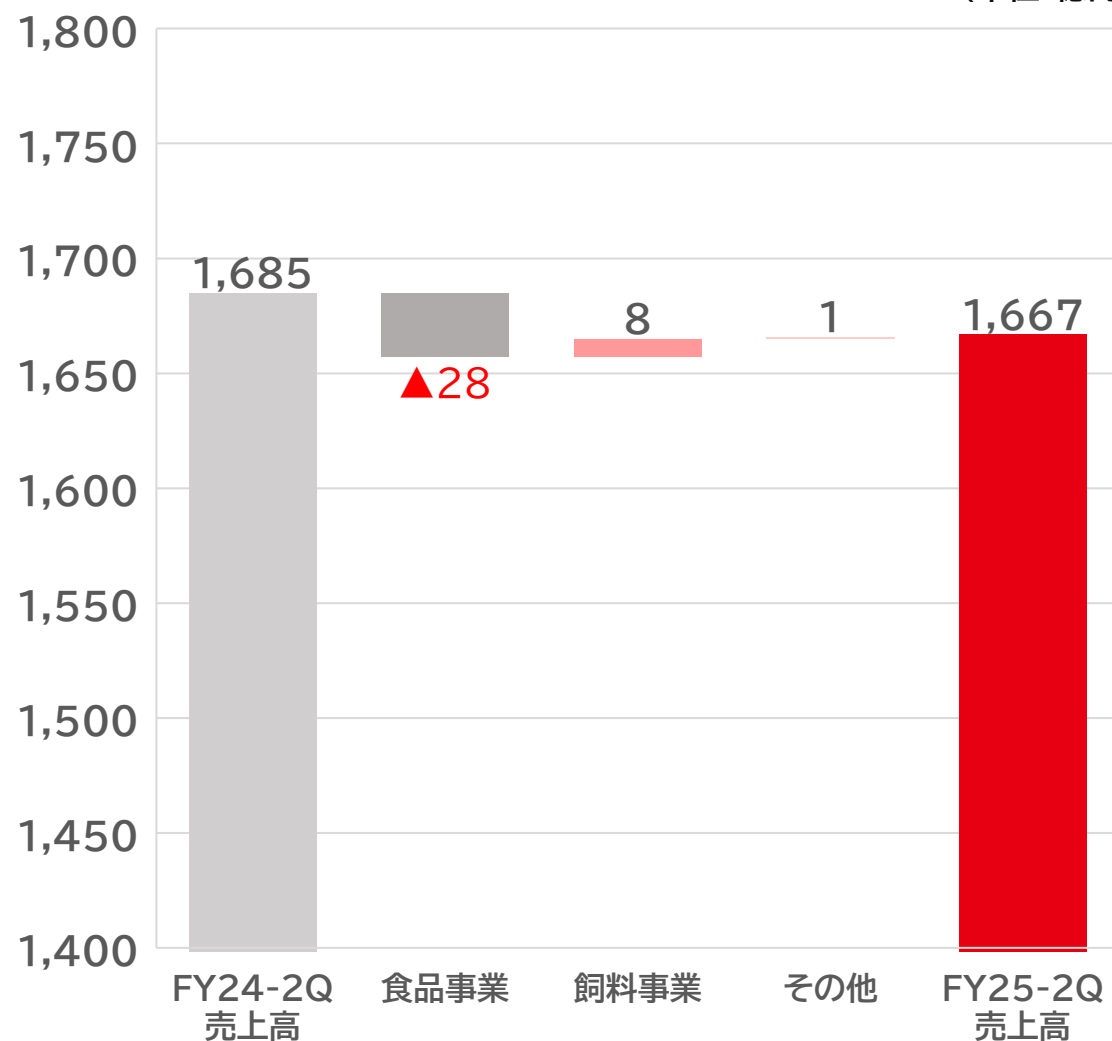


2026年3月期 中間期 業績ハイライト

売上高

1,667億円

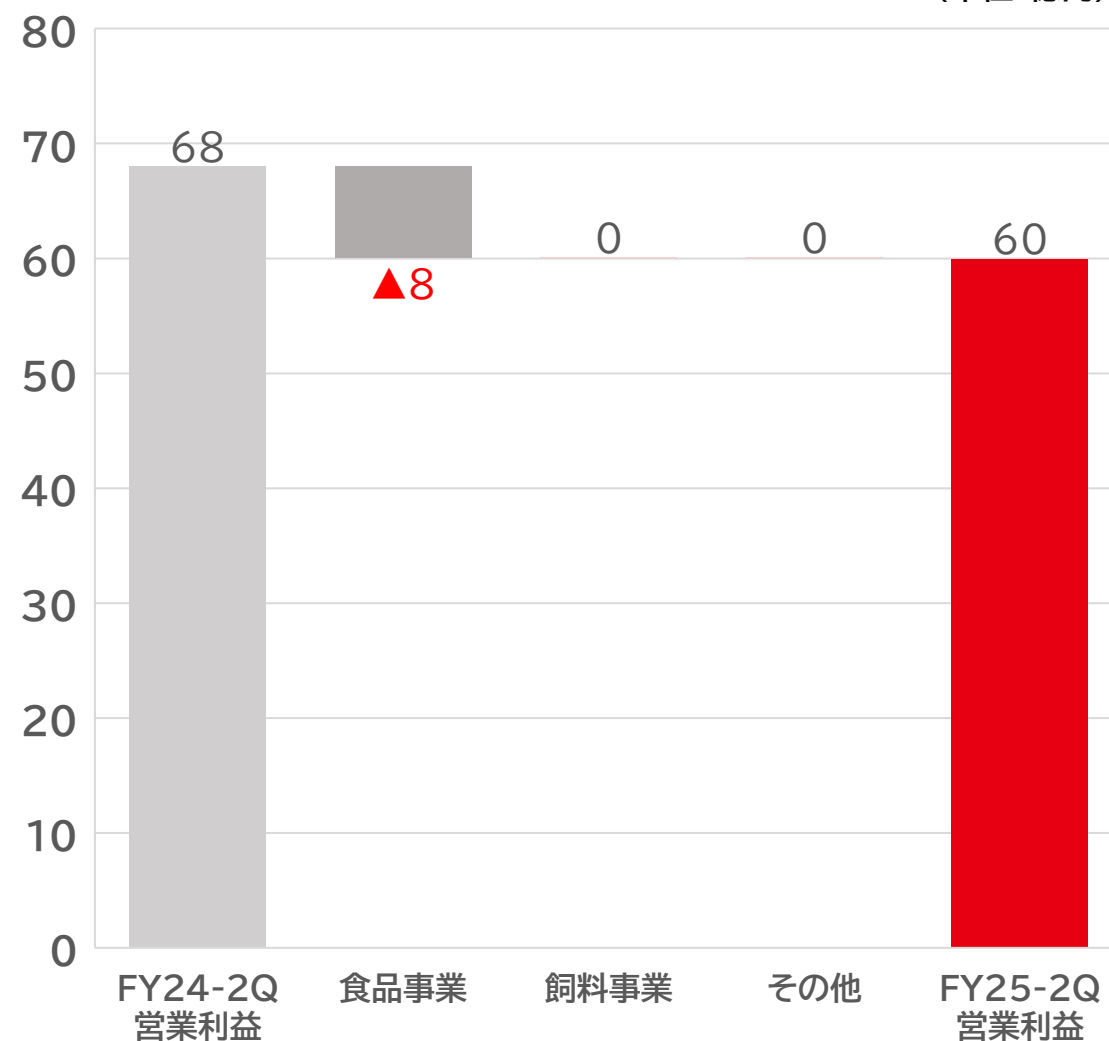
(単位:億円)



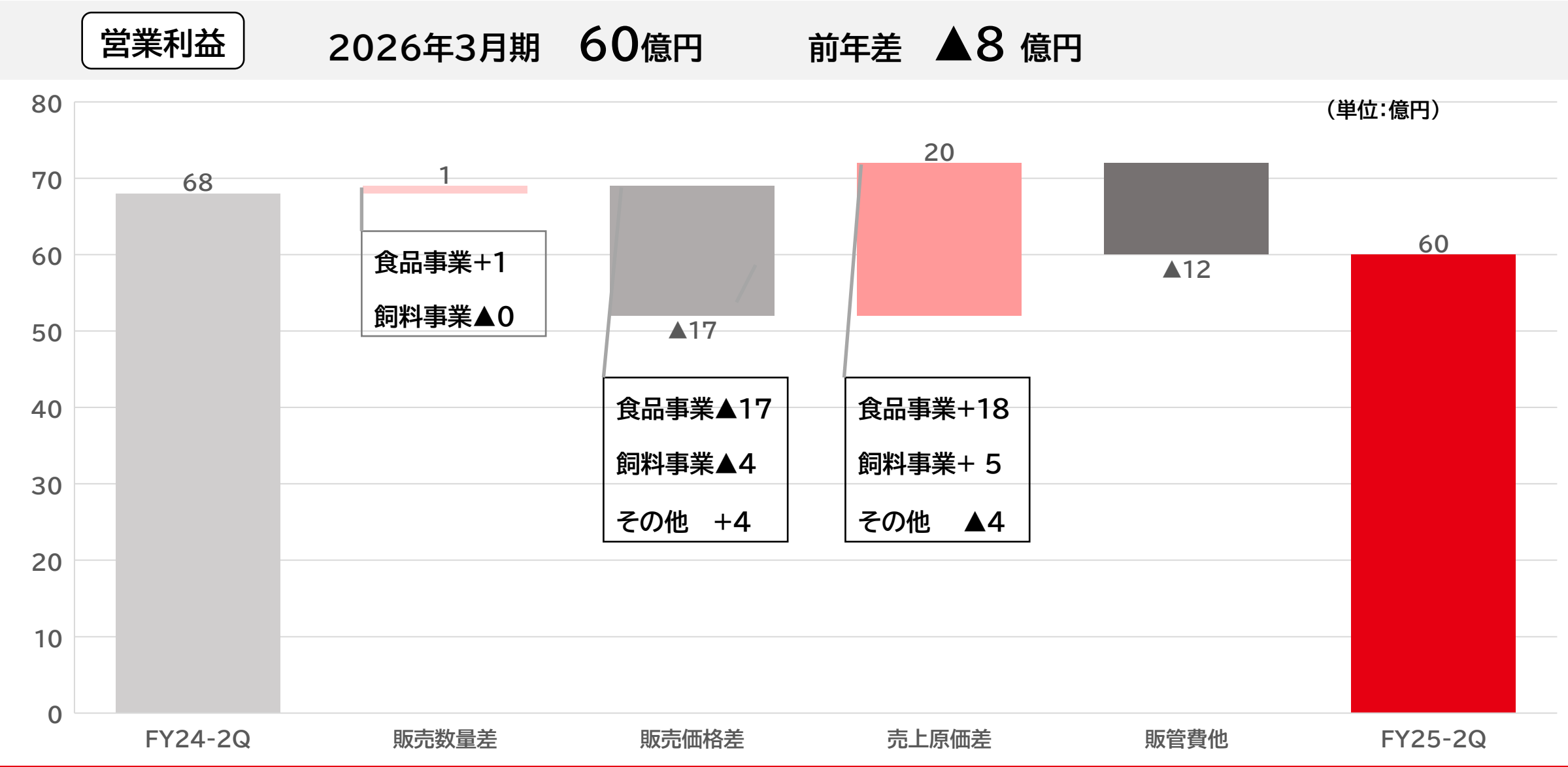
営業利益

60億円

(単位:億円)



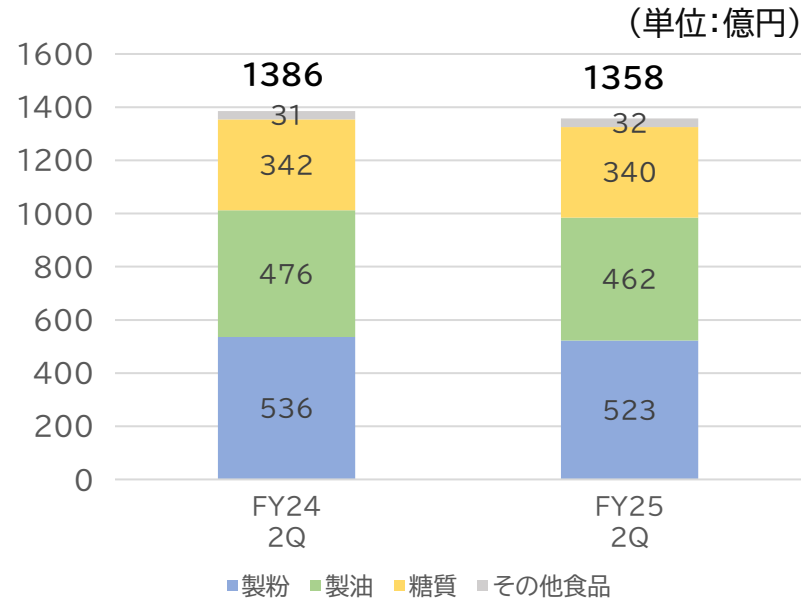
2026年3月期 中間期 営業利益の増減要因



2026年3月期 中間期 セグメント別売上高・営業利益

食品事業 売上高

FY25-2Q	1,358億円
前年同期差	▲28億円
増減率	▲2.0%

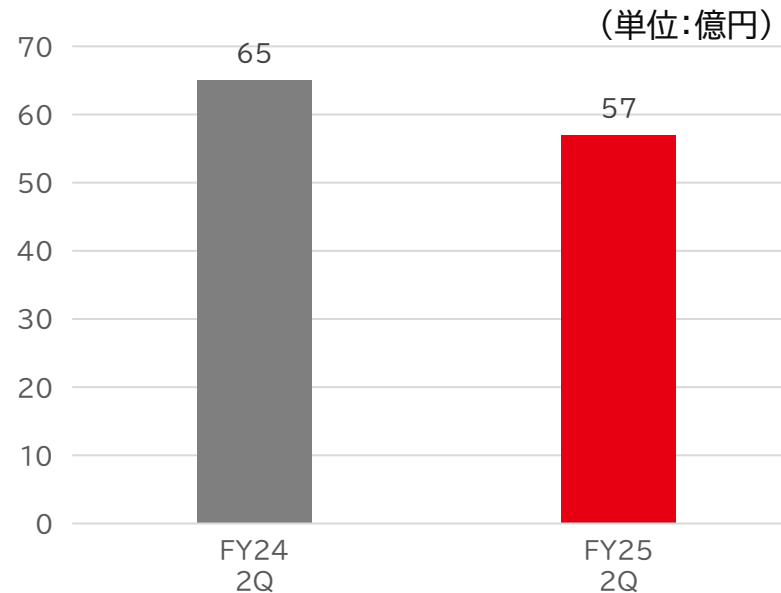


販売数量は前年同期上回るも、販売価格が前年同期を下回ったことなどが影響し、減収

売上高	FY24 2Q	FY25 2Q	前年同期差	増減率
製粉	536	523	▲13	▲2.4%
製油	476	462	▲13	▲2.9%
糖質	342	340	▲2	▲0.7%
その他食品	31	32	0	3.0%
食品事業合計	1,386	1,358	▲28	▲2.0%

食品事業 営業利益

FY25-2Q	57億円
前年同期差	▲8億円
増減率	▲12.6%



販売価格への販管費増加分の転嫁が遅れている影響が大きく、減益

営業利益	FY24 2Q	FY25 2Q	前年同期差	増減率
食品事業	65	57	▲8	▲12.6%

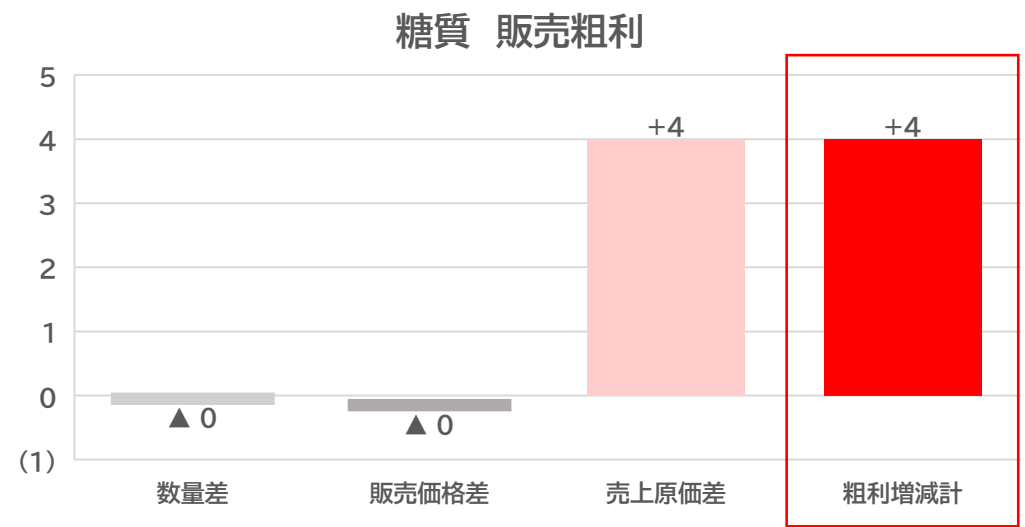
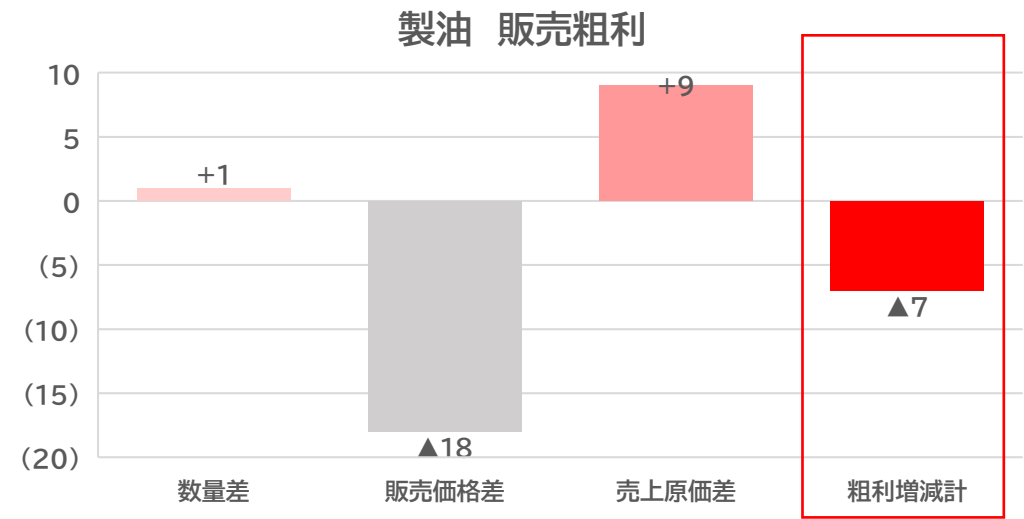
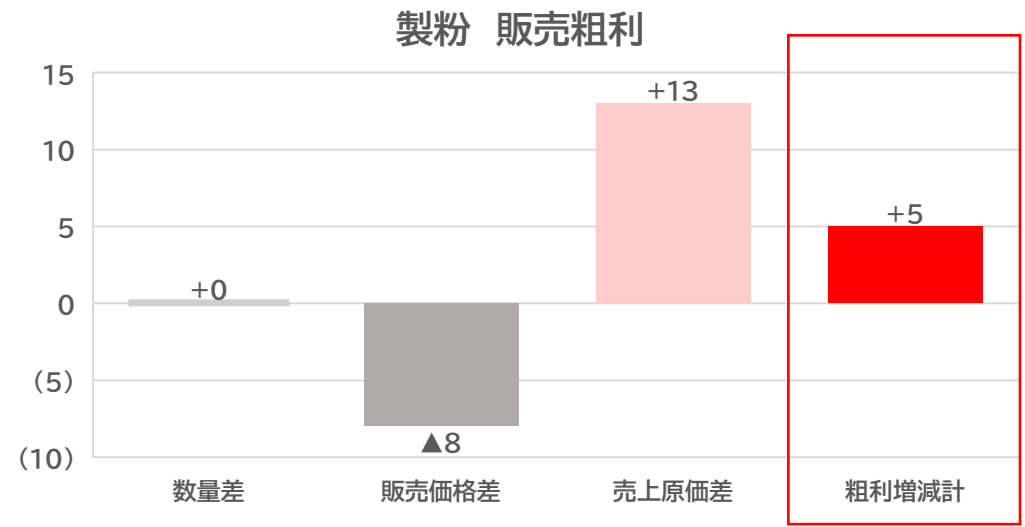
2026年3月期 中間期 営業利益の増減要因(食品事業カテゴリ別)

食品事業営業利益

2026年3月期 中間期 **57 億円**

前年同期差 **▲8 億円**

(単位:億円)



販売粗利差(3カテゴリ+その他食品) **+3億円**

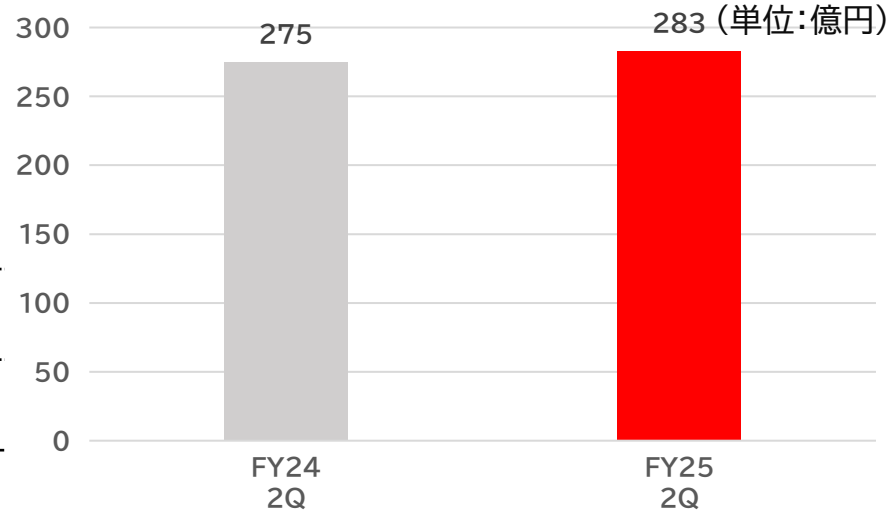
販管費差等 **▲11億円**

食品事業営業利益差 ▲8億円

2026年3月期 中間期 セグメント別売上高・営業利益

飼料事業 売上高

FY25-2Q	283億円
前年差	8億円
増減率	3.0%

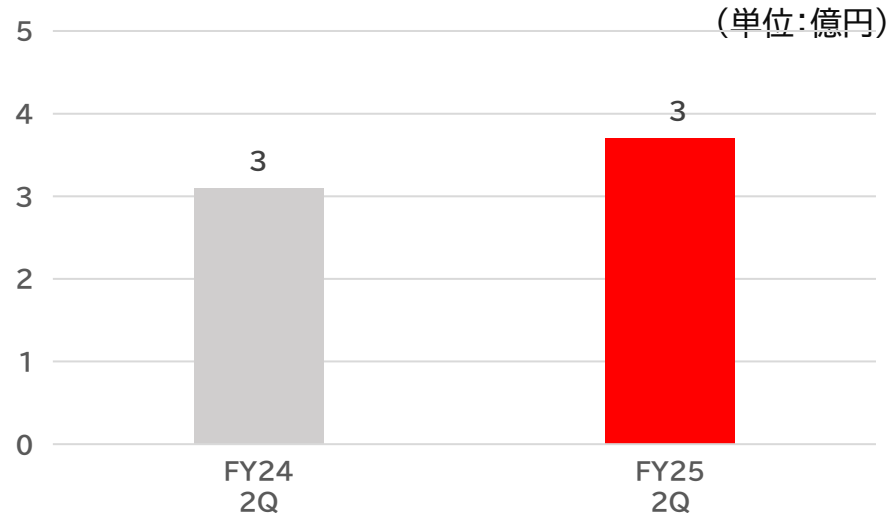


配合飼料および鶏卵の販売数量は前年同期を若干下回ったものの、鶏卵相場が堅調に推移したことで、増収

売上高	FY24 2Q	FY25 2Q	前年差	増減率
飼料事業	275	283	8	3.0%

飼料事業 営業利益

FY25-2Q	3億円
前年差	0億円
増減率	16.8%



販売数量は前年同期を若干下回ったものの、鶏卵相場が堅調に推移したことで、ほぼ前年同期並み

営業利益	FY24 2Q	FY25 2Q	前年差	増減率
飼料事業	3	3	0	16.8%

連結貸借対照表

(単位:億円)

項目	2025年3月末	2025年9月末	増減
資産合計	2,555	2,616	61
流動資産	1,127	1,119	▲8
固定資産	1,427	1,497	69
負債合計	1,168	1,156	▲12
有利子負債 (リース債務含む)	505	526	20
その他負債	662	630	▲32
純資産合計	1,386	1,459	73

<主な要因>

●資産の部

- (－)現金及び預金の減少
- (＋)投資有価証券の増加

●負債の部

- (－)支払手形及び買掛金の減少
- (＋)有利子負債の増加

●純資産の部

- (＋)当中間純利益の計上
- (－)配当金の支払い

原価に与えるコスト要素

■コスト環境【原料・為替・エネルギー】

- ・原料穀物相場は、トランプ関税をめぐる米中の不安定な動向、米国のバイオ燃料政策などによる影響が大きいいため、今後も注視が必要
- ・海上運賃は、旺盛な石炭需要や堅調な南米穀物輸送の影響で、4－6月を上回る水準

	2025年3月期				2026年3月期		
	4-6月実績	7-9月実績	10-12月実績	1-3月実績	4-6月実績	7-9月実績	通期 前提
小麦 円/t ※1	68,240	67,810	67,810	66,610	66,610	63,570	63,451
大豆 ¢/Bu ※2	1,171	1,168	1,000	1,002	1,024	1,036	1,039
菜種 C\$/MT ※3	609	632	598	619	634	703	628
トウモロコシ ¢/Bu ※4	429	430	398	446	471	428	460
海上運賃 us\$/t ※5	62.3	62.3	57.2	45.4	45.8	51.6	55.0
為替 円/us\$ ※6	150.96	157.44	144.65	154.67	148.40	145.38	148.00
LNG 円/kg ※7	94.8	93.8	92.1	97.0	91.5	85.7	94.5

※1:該当期間3か月前の5銘柄平均価格 ※2:該当期間の2か月前のシカゴ相場平均 ※3:該当期間の2か月前のICE相場平均
 ※4:該当期間の2か月前のシカゴ相場平均 ※5:米国ガルフ-ジャパンのパナマックス船(トウモロコシベース) ※6:該当期間の2か月前のTTM平均
 ※7:該当期間の2か月前の「財務省貿易統計」月間の実績速報値 より、本国の輸入品価額・数量から平均単価を算出

- 1 2026年3月期 中間期 業績
- 2 2026年3月期 業績予想**
- 3 「中期経営計画23-25」進捗
- 4 資本コストや株価を意識した経営への取り組み
- 5 その他トピックス

2026年3月期 業績予想

- ・既に発表している数値から変更なし
- ・当期純利益は、前年の固定資産譲渡益による差異

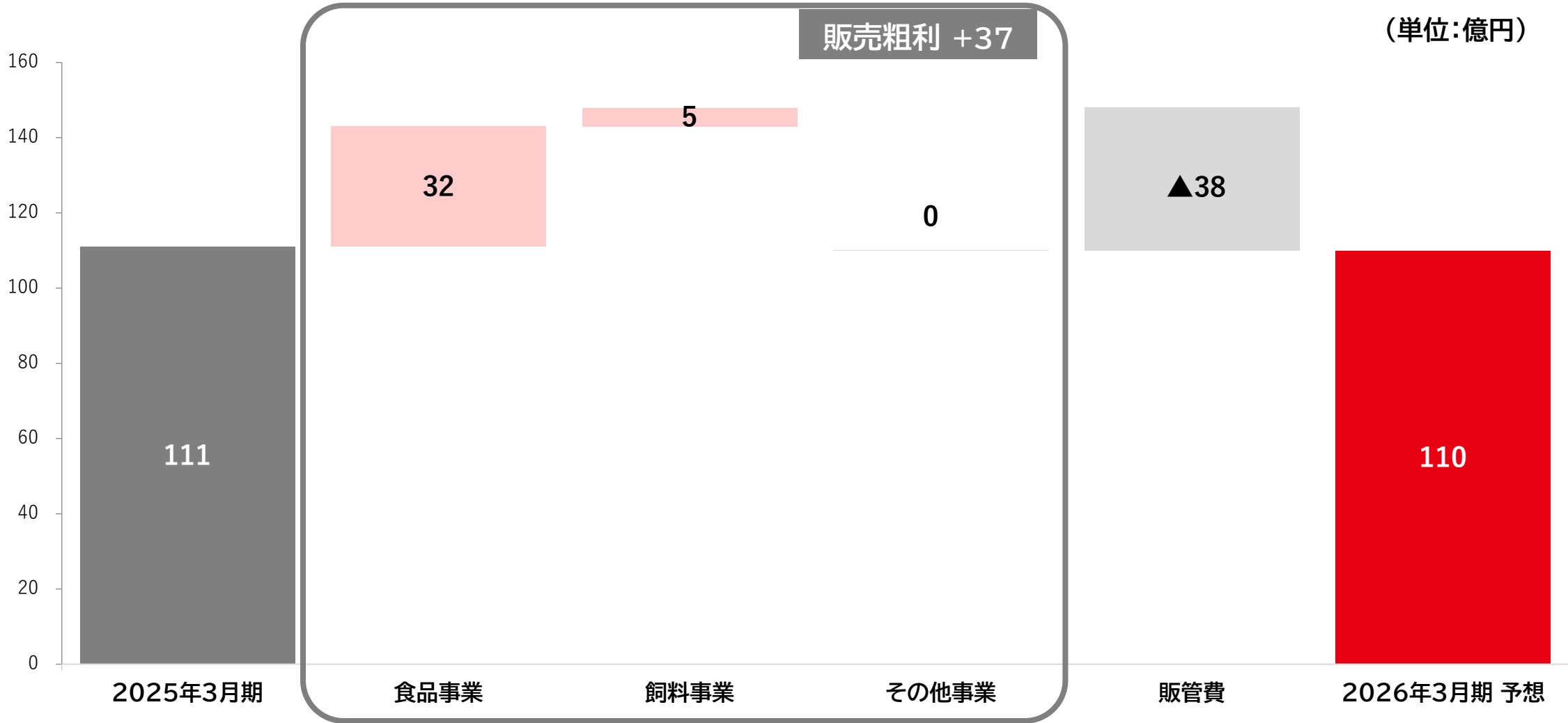
(単位:億円)		2025年3月期	2026年3月期 (予想)	増減 (前期比)	増減率 (前期比)
売上高	食品	2,735	2,764	29	
	飼料	561	586	24	
	その他	47	49	1	
	計	3,344	3,400	55	1.7%
営業利益	食品	109	107	▲2	
	飼料	4	7	3	
	その他	14	13	▲1	
	全社費用他	▲17	▲17	0	
	計	111	110	▲1	▲1.1%
経常利益		135	130	▲5	▲4.4%
当期純利益		115	95	▲20	▲18.1%

2026年3月期 業績予想(営業利益)

営業利益

2026年3月期予想 110 億円

前年差 ▲1 億円



- 1 2026年3月期 中間期 業績
- 2 2026年3月期 業績予想
- 3 「中期経営計画23-25」進捗**
- 4 資本コストや株価を意識した経営への取り組み
- 5 その他トピックス

「中期経営計画23-25」5つの基本戦略

① 基盤事業の強化

1. 穀物ソリューションの進化
ーワンストップ型営業組織への変革による
販売力強化
2. グループ連携による事業拡大と収益力強化
3. 商品構成の最適化
4. 差別化戦略による付加価値商品の拡販
5. 安定調達の強化

② 事業領域の拡大

1. ASEAN地域における既存事業の強化と
新たな事業展開による海外事業の拡大
2. 輸出事業の強化
3. 冷凍食品事業の拡大
4. 新規事業への挑戦
ープラントベースフード(植物由来食品)
ーファインケミカル、オレオケミカル

当社グループの持続可能を支えるサステナビリティ経営の深化

③ 環境負荷の低減

④ プラットフォームの再構築

⑤ ステークホルダー エンゲージメントの強化

重点施策の進捗状況

基本戦略① 基盤事業の強化

1. 穀物ソリューションの進化	 営業組織再編による提案力強化
2. グループ連携による事業規模拡大と収益力強化	 グループ一体となった生産拠点の運用最適化による収益力強化
3. 商品構成の最適化	 新たな油種として、コーン油・こめ油の拡販
4. 差別化戦略による付加価値商品の拡販	 ユーザーイン視点のソリューション型営業による新たなマーケット創出
5. 安定調達の強化	 安定的な調達に向けて調達地域の多産地化を推進

基本戦略② 事業領域の拡大

1・2. 海外事業・輸出事業の拡大	 海外顧客との接点創出・強化により、輸出事業拡大
3. 冷凍食品事業の拡大	 東葛食品のグループ化により、冷凍商品事業の体制強化
4. 新規事業への挑戦	 プラントベースの新ブランド立上げ・ファイトケミカル社との資本業務提携



安定供給



差別化商品



結晶ぶどう糖



オリゴ糖酸

糖質業界での強固なポジショニングを形成

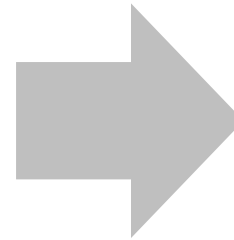
物量と品質の両面で
業界トップクラスに成長

相場に左右されにくい
収益安定化を達成



製油カテゴリーのボラティリティ低減に向けて ～コーン油サプライチェーンの確立とマーケット創造～

糖化製品の需要に連動
原料供給が不安定



安定生産体制を確立

現在の取り組み

コーン油の香気成分を
特定し、学会発表

今後の展開

コーン油の価値を再定義し
マーケットを創造



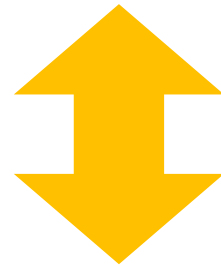


業界全体の効率化とDX推進に貢献するため 穀物・油糧種子輸入の業界横断型プラットフォーム開発に参画

穀物取扱量
日本一

社会的責任として商社以外で初めて参画

日本の食糧インフラを支える



効率化×取扱量＝最もメリットを享受できる



業界横断型プラットフォーム:Tradewaltz for Grain Importers

基本戦略②事業領域の拡大 1・2. 海外事業の拡大





東葛食品株式会社の完全子会社化

冷凍食品事業の体制を一層強固なものとし、事業の更なる成長を実現



東葛食品株式会社

商号	東葛食品株式会社
所在地	千葉県鎌ヶ谷市東初富一丁目5番32号
代表者	代表取締役 田澤理一郎
設立	1966年9月19日
資本金	9,980万円
主要事業	中華まんじゅう、中華惣菜ほかの製造販売





オレオケミカル・ファインケミカル事業のロードマップ

事業体制構築

- ・ファイトケミカルプロダクツ（PCP社）と資本業務提携
- ・PCP社ベンチスケール設備稼働



実証開発

- ・PCP社開発工場での量産化技術の確立
- ・匝瑳市での脱炭素化推進PJに参画



事業拡大

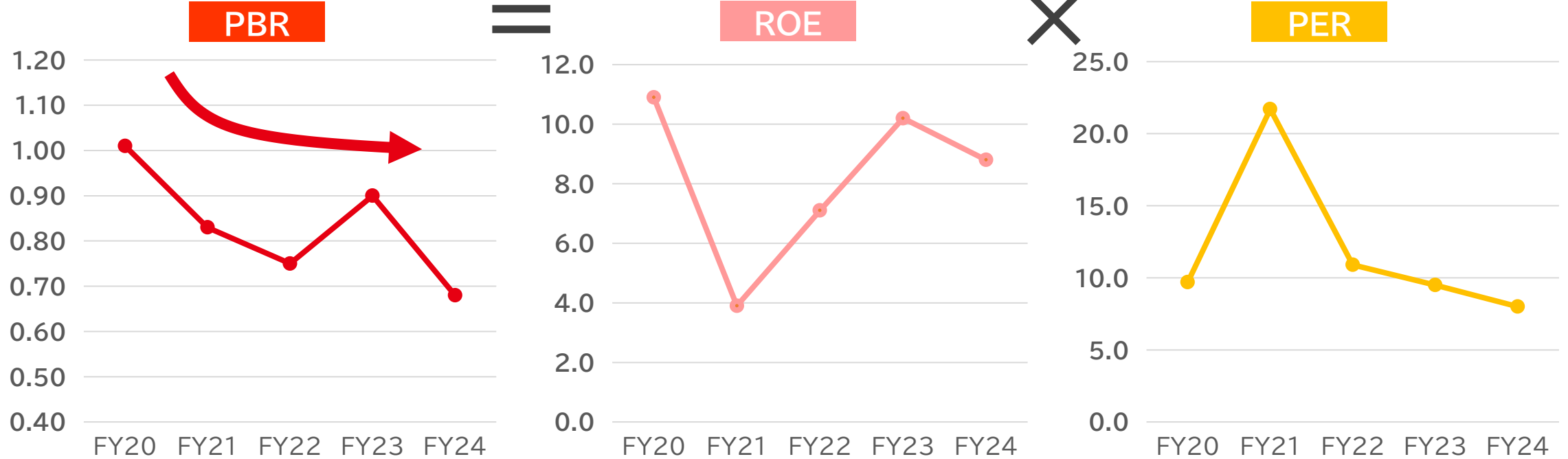
- ・PCP社量産化工場稼働による事業化
- ・ライセンス・エンジニアリング事業展開
- ・海外展開

『オレオ・ファインケミカル』
植物油製造過程の副産物を石油
化学製品の代替や高付加価値素
材にアップサイクルすること

現在

- 1 2026年3月期 中間期 業績
- 2 2026年3月期 業績予想
- 3 「中期経営計画23-25」進捗
- 4 資本コストや株価を意識した経営への取り組み**
- 5 その他トピックス

PBR分解



当社の認識

- ・PBRは2021年度以降1.0倍を割っており、経営効率が低水準であること(ROE)、期待成長率が低いこと(PER)が要因と認識
- ・ROEは8%台で推移、中期経営計画最終年度である2025年度の目標値7.0%以上を達成
⇒さらなる向上を目指す
- ・PER改善のために持続的な成長可能性を裏付ける具体的な施策を提示する必要性

PBR = ROE × PER

PBRの向上にはROE/PERの改善が急務と認識

P B R	R O E	中期経営計画23-25目標値 7.0以上 目標値の達成を確実に実行するだけでなく更なる向上を目指す	収益力の改善	ROIC経営による基盤事業の資本収益性の改善 ソリューション提案型営業
			資産効率の向上	政策保有株式・遊休不動産売却 ⇒アセットライト経営の段階的推進
	P E R	持続的成長可能性を裏付ける具体的な施策の提示 当社の成長戦略を理解いただくためのSR・IR活動の強化	期待成長率の向上	新規事業への投資の加速により次世代のビジネスへの取り組み強化
			IR・SR活動の更なる強化	株主・投資家との丁寧な対話の推進 株主還元の強化 ⇒適正な株価形成

- 1 2026年3月期 中間期 業績
- 2 2026年3月期 業績予想
- 3 「中期経営計画23-25」進捗
- 4 資本コストや株価を意識した経営への取り組み
- 5** その他トピックス

ステークホルダーエンゲージメントの強化





穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業グループ

見通しに関する注意事項

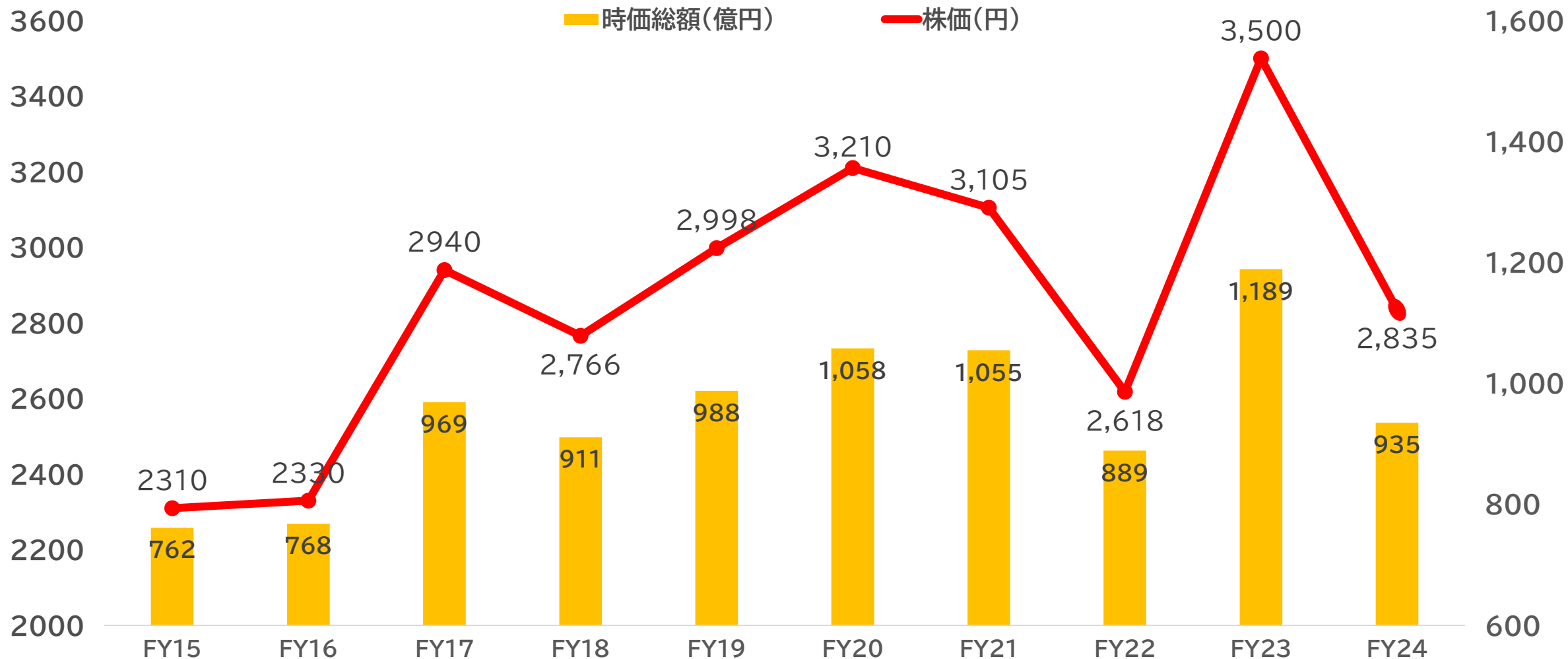
本資料は、現時点で入手可能な情報や、合理的と判断した一定の前提に基づいて策定した数値であり、潜在的なリスクや不確実性などを含んでいることから、その達成や将来の業績を保証するものではありません。

また実際の業績等も本資料における見通し、計画等とは大きく異なる結果となる可能性がありますので、本資料のみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さい。

なお、将来における情報・事象及びそれらに起因する結果にかかわらず、昭和産業グループは当中期経営計画を見直すとは限らず、またその義務を負うものではありません。

参考資料

株価推移



※2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っており、18/3期以前につきましては当該株式併合調整後の3月末株価に基づき記載しております。

連結キャッシュ・フロー

(単位:億円)

項目	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	増減
営業キャッシュ・フロー	77	73	▲3
投資キャッシュ・フロー	▲48	▲89	▲41
有形固定資産の取得	▲74	▲69	4
有形固定資産の売却	29	0	▲29
その他	▲4	▲2	2
フリー・キャッシュ・フロー	28	▲15	▲44
財務キャッシュ・フロー	▲14	▲1	13
現金及び現金同等物の期末残高	95	50	▲44

四半期別 売上高・営業利益推移

(単位:百万円)		1Q			2Q			3Q			4Q		
		FY24	FY25	増減額	FY24	FY25	増減額	FY24	FY25	増減額	FY24	FY25	増減額
売上高	食品	71,315	69,413	▲1,901	67,377	66,441	▲936	71,229	—	—	63,610	—	—
	飼料	13,444	13,953	508	14,068	14,375	307	14,670	—	—	13,979	—	—
	その他	1,169	1,280	110	1,206	1,236	29	1,187	—	—	1,165	—	—
	合計	85,929	84,647	▲1,282	82,653	82,054	▲598	87,086	—	—	78,755	—	—
営業利益	食品	3,971	3,374	▲596	2,592	2,360	▲231	3,068	—	—	1,343	—	—
	飼料	112	136	23	204	234	30	14	—	—	153	—	—
	その他	385	379	▲6	351	362	10	344	—	—	345	—	—
	全社費用 他	▲350	▲355	▲5	▲400	▲437	▲37	▲549	—	—	▲461	—	—
	合計	4,118	3,534	▲584	2,748	2,520	▲228	2,877	—	—	1,381	—	—

四半期別 売上高推移(食品事業 カテゴリ別)

(単位:百万円)		1Q			2Q			3Q			4Q		
		FY24	FY25	増減額	FY24	FY25	増減額	FY24	FY25	増減額	FY24	FY25	増減額
売上高	製粉	27,325	26,943	▲382	26,322	25,403	▲918	27,823	—	—	24,895	—	—
	製油	25,024	23,473	▲1,550	22,601	22,770	169	24,349	—	—	21,900	—	—
	糖質	17,343	17,228	▲115	16,908	16,774	▲133	16,380	—	—	15,179	—	—
	その他	1,621	1,768	147	1,545	1,492	▲53	2,675	—	—	1,634	—	—
	合計	71,315	69,413	▲1,901	67,377	66,441	▲936	71,229	—	—	63,610	—	—